

天国の色は何色か？

ー大学生における色彩感覚と死後に関するイメージ色ー

○渡邊登萌・井藤本美紗希・井藤村美穂・井松川明美・小野史典

(山口大学大学院教育学研究科)

目 的

人間は 100 万個以上の色を弁別できるが、それらをいくつかのカテゴリにまとめ、色名を付けて知覚している(内川, 1998)。安藤ら(2019)は、学生や教員約 400 人を対象に、人が思い描く代表的な青色と青色の許容範囲を調査した。その結果、青色の代表色は概ね統一された一方、許容範囲は年代ごとに異なる特徴を示した。

本研究では、青色に加えて赤色・黄色・緑色の許容範囲を調べ、出身地の自然度で比較した。また、物理的に確認できない死後に関する言葉(天国・地獄・死後の世界・幽霊)からイメージされる色について調査し、自然度との関連を検討した。

方 法

参加者 大学生171名(男性89名, 女性80名, その他2名, 平均年齢20.27歳, SD 5.21)を対象に質問紙調査を行った。

質問紙 自然度を問う質問「あなたが一番長く住んでいた地域には、どのくらい自然がありましたか」を「非常に少ない」から「非常に多い」の7件法で行った。続いて、①赤②青③黄④緑に含まれる範囲を、CMYKを基準に作成した色相円環に書き込んでもらった。次に、①天国②地獄③死後の世界④幽霊に一番ふさわしいと思う色を1色ずつ、理由とともに回答してもらった。最後に、上記①～④に一番ふさわしいと思う色を、青・赤・黄・緑の原色に、現代でも馴染みのあると思われる日本の伝統色を加えた全60色の中から1色ずつ選んでもらった。

結 果

自然度の内訳は、1～4(非常に少ない～普通)が41名, 5が45名, 6が41名, 7(非常に多い)41名, 無回答が2名であった。1～4を選択した群を低群, 7を選択した群を高群に分け、分析を行った。

Figure1は、青色の許容範囲を低群と高群で比較したものである。青の選択範囲は、高群の方が低群よりも広がった。

Figure2に、天国にふさわしいとして選択された色を、自然度別に集計した。低群と高群において、選択した色に差は見られなかった。しかし60

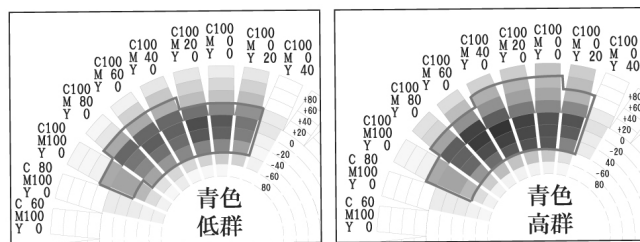


Figure1. 自然度別の青色の許容範囲

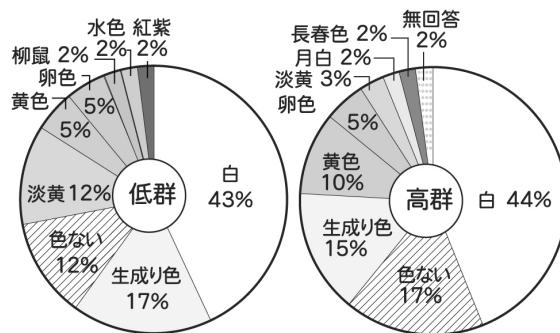


Figure2. 自然度別の天国に一番ふさわしい色

色の中から選ばれたのは7, 8色であり、偏りがあると言えよう。また天国からイメージされる色は人によって異なるが、全体的に明度は高かった。理由として、雲が最も多く連想されており、総じてポジティブな印象をもつ単語が挙げられた。

考 察

本研究によれば、出身地の自然度が高いほど、青色の許容範囲が広がった。この結果は、自然が多い地域で育った人は、青いとされる海や山が実際は様々な青色をしていることを経験的に知っていることによると考えられる。また、死後に関する言葉から連想される色は異なるが、出身地の自然度に関係なく、ある程度のイメージは共有されていることが示唆された。

引用文献

安藤寛子・遠藤敏喜・河原弘太郎・齋藤凜太郎・座波佑爾・田中悠貴・奈良忠寿・野村太郎・日高安哲(2019). ひとが思い描く青色は同じか 生活大学研究, 4, 97-102.
内川恵二(1998). 色覚のメカニズム 朝倉書店.